

実績

GRI301-3
 GRI306-2

製品ライフサイクルでの廃棄物削減

味の素グループは、事業活動において、限りある資源をムダなく使い、廃棄物の発生量抑制に取り組むとともに、発生したものについては徹底的に有効利用し、99%以上資源化することを目標としています。

特にアミノ酸の生産においては、副生物の資源化や新技術の導入による生産効率の向上を図っています。また、食品の生産においては、ムダになる原材料や包装資材を極少化するため、販売予測の精度向上やきめ細かな調達等を進めています。

2019年度は、温室効果ガス排出量の削減に向けたバイオマスボイラーの稼働率の上昇に伴うバイオマスボイラーからの燃えがら(籾殻灰)の増加等により、有害廃棄物の発生量は増加しましたが、燃えがらの肥料・肥料原料としての有効利用により、有害廃棄物のリサイクル量は増加し、埋め立て量は減少しました。なお、籾殻を高温燃焼させた際に発生するとされる発がん性物質排出リスクへの対応として、作業環境測定を行い、環境リスクが低いことを確認しています。

廃棄物・副生物の発生量および資源化率の推移

(トン)

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
有害廃棄物(廃酸、廃アルカリ、廃油、燃えがら)					
発生量	60,431	59,217	59,162	69,991	83,834
リサイクル量	59,457	58,890	58,862	68,422	83,429
焼却量	14	54	24	40	60
埋め立て量	959	274	276	1,529	345
非有害廃棄物					
副生物					
発生量	2,435,544	2,337,284	2,395,249	2,194,566	2,021,002
たい肥化量	2,434,281	2,335,451	2,394,976	2,194,470	2,020,885
焼却量	0	0	0	0	0
埋め立て量	1,263	1,832	273	96	117
副生物以外					
発生量	140,464	178,861	178,989	174,651	181,246
リサイクル量	131,258	163,414	161,455	153,388	156,432
焼却量	1,293	3,021	2,066	2,821	2,121
埋め立て量	7,913	12,426	15,467	18,442	22,693
発生量合計	2,636,439	2,575,361	2,633,400	2,439,208	2,286,082
リサイクル量合計	2,624,997	2,557,755	2,615,293	2,416,280	2,260,745
廃棄量合計	11,442	17,606	18,107	22,928	25,337
資源化率	99.6%	99.3%	99.3%	99.1%	98.9%

考え方

GRI301-DMA
GRI301-3

体制

GRI306-DMA

▶ 統合報告書2020
P44

容器包装の環境配慮設計の推進

味の素グループは、ISO 18600シリーズやJIS Z 0130に基づき容器包装の環境配慮設計を行っており、本来の機能を損なわない範囲でできるだけ包装資材の使用量を削減する、材質ごとにリサイクルしやすいよう容易に分離・分別できる工夫を施す等、3Rを推進しています。特性や形態の異なる様々な製品に合わせて、プラスチック製パウチ、トレイ、ボトル、ガラス瓶、PETボトル、紙箱、外装(段ボール箱)に至るまで、最適な容器包装を選択・開発し、環境配慮設計を進めています。また、容器包装の鮮度保持機能の強化による賞味期限延長や、食べきることのできる小分け包装の採用等により、フードロス発生量の低減に取り組んでいます。

容器包装の環境配慮に取り組む体制

味の素グループでは、調味料、加工食品をはじめとして、冷凍食品、コーヒー製品、油脂等、取り扱う製品も使用する容器包装も多岐にわたっています。グループ各社の容器包装に関する環境配慮の取り組みを共有化し改善のヒントにするため、「包装設計者連絡会」等を通じて日本国内のグループ会社間の情報交換を行っています。

プラスチック廃棄物ゼロ化に向けて

近年、プラスチック海洋廃棄物の課題が世界規模で議論され、早急な解決が望まれています。味の素グループの包装資材使用量は年間約270千トン、うちプラスチックは約70千トンで、その40%が日本国内での使用、60%が海外での使用となっています。とりわけ、プラスチック包装資材流出による環境への影響が問題視されている東南アジア地域での使用量が多くなっています。味の素グループは、2030年度にグループ使用量のプラスチック廃棄物ゼロ化を目標としています。この取り組みをより戦略的に推進するため、2020年3月に全社プロジェクトとして「プラスチック廃棄物ゼロ化実行プロジェクト」を立ち上げました。

プロジェクトでは「プラスチック使用量の削減」と「資源として循環可能な条件整備」の2つを重点テーマとしています。使用量の削減については、包装の見直しによる薄肉化やコンパクト化、紙等への置き換えを可能な製品から進めています。資源として循環可能な条件整備については、モノマテリアルプラスチック包装資材や生分解性プラスチック包装資材の導入を検討しています。

プラスチック廃棄物削減のロードマップにつきましては、統合報告書2020をご覧ください。

資源循環型社会実現への貢献

実績

容器包装の環境配慮設計の事例

■ 味の素(株)

- ・2019年10月より美容クリーム「ジーノ アミノシューティカル クリーム」のパッケージに「バックレスチューブ」を採用し、プラスチックの使用量を従来品比で約90%削減しました。中身を出した後に空気が入らないため、品質保持期間も延長しました。
- ・健康基盤食品の「グリナ®」、「アミノエール®」6本入りお試し品のフィルム包装に超音波シールを導入し、プラスチックの使用量を従来品比で32%削減しました。日本パッケージングコンテスト2019「経済産業省産業技術環境局長賞」、WorldStar Packaging Awards 2020「WorldStar賞」を受賞しました。

■ 味の素AGF(株)

- ・2019年10月発売のスティックコーヒー「ブレンディ®」スティック カフェオレ エコスタイルにコーヒー業界で初めてスティック製品の包材の一部に紙を採用し、賞味期限を変えずに、プラスチックの使用量を従来の同型スティック品比約20%削減しました。第59回 2020 ジャパンパッケージングコンペティション「公益社団法人日本包装技術協会賞」を受賞しました。
- ・2020年2月よりホームサイズPETボトルコーヒーおよびインスタントコーヒー袋(業務用を除く)の梱包資材に、人手不足対応・環境配慮型段ボール「SRP(シェルフ・レディ・パッケージ)」を採用し、従来品比で、1箱当たりの開封時間を約10秒短縮するとともに、プラスチックテープ不使用によりプラスチックの使用量を年間約3.4トン削減しました。

■ ペルー味の素社

2019年4月発売の即席めん「Cup-type Aji-no-men®」のパッケージに生分解性のプラスチックを採用し、年間約63トンのプラスチックを生分解性のものに置き換えました。



「ジーノ アミノシューティカル クリーム」20g、40g



「グリナ®」、「アミノエール®」6本入りお試し品



「ブレンディ®」スティック カフェオレ エコスタイル



「ブレンディ®」ボトルコーヒー

【従来品】(左)

段ボール内側にある白いプラスチックテープを利用して開封する設計

【SRP導入品】(右)

プラスチックテープは使用せず、ミシン目を利用して簡単に開封できる設計



「Cup-type Aji-no-men®」即席めん

実績

GRI102-12
GRI306-DMA

▶ 外部イニシアティブへの参加

社外関係者との連携

味の素グループは、日本の容器包装リサイクルの推進団体や行政関連組織との連携を通じて、社会の多くの皆様に3Rを知っていただく活動を行っています。

プラスチック廃棄物の削減に関する取り組みとしては、業種を超えた幅広い関係者の連携を強めてイノベーションを加速するためのプラットフォーム「CLOMA」*に、設立メンバー企業として参画しており、幹事、部会長（普及促進部会長）を務めています。また、2019年12月、リサイクル業のグローバルなスタートアップである米国のテラサイクル社が開発した容器回収・再利用事業「Loop」にパートナー企業として参画しました。これは、東京都が「プラスチックの持続可能な利用に向けた新たなビジネスモデル」として採択しているもので、2020年秋には東京都内5,000世帯規模を対象とする環境負荷の検証実験が始まる予定です。味の素グループでは、顆粒の調味料とインスタントコーヒーのテスト販売を予定しています。

*クリーン・オーシャン・マテリアル・アライアンス(英文名: Japan Clean Ocean Material Alliance)



「Loop」で使用する再利用可能な容器(コンセプト品)

■ その他の活動実績

- ・ JAPAN PACK2019「環境特別フォーラム」での講演
- ・ 2019年度NEDO TSC Foresight セミナーでの講演
- ・ 日本・UNIDO官民協力対話での講演
- ・ 第53回食品包装シンポジウムでの講演

資源循環型社会実現への貢献

実績

GRI301-3
 GRI307-DMA

容器包装の環境アセスメントの実施

味の素グループでは、新製品および改訂品を発売する前に、個々の製品で順守すべき法規制やグループ環境目標への適合性を確認するためのチェックリストをもとに、環境アセスメントを実施しています(表1)。さらに、味の素(株)では、「容器包装エコインデックス評価表」をもとに、改訂内容を採点方式で評価しています(表2)。

表1 環境アセスメントチェックリスト

目的		チェック項目
順守	廃棄物の3R	環境法令・規制への適合
	フードロス削減	製品の劣化や破損の防止
	リスク	リスクのない包装資材の採用
環境目標適合性	廃棄物の3R	3Rにつながる包装資材の採用
	持続可能な調達	持続可能な包装資材の採用
	フードロス削減	フードロス削減につながる包装資材の採用
	温室効果ガス削減	輸送時の積載率の向上
	生活者のエコライフ意識の醸成	環境ラベルの表示

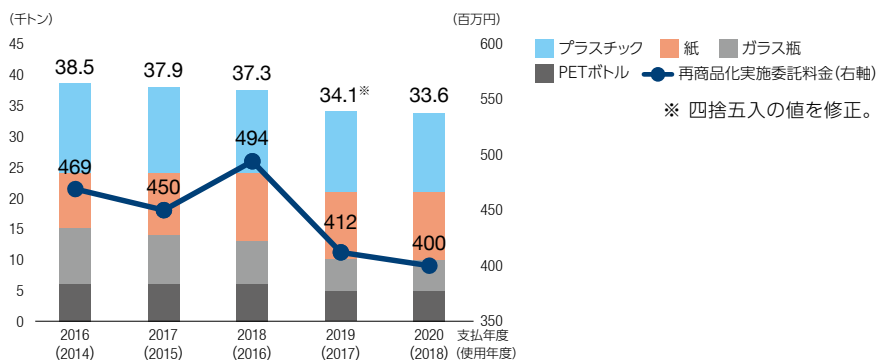
表2 容器包装エコインデックス評価表

目的	評価項目の例	評価基準の例	評価点
廃棄物の3R	プラスチック容器包装重量の削減	450kg/年以上の削減	+2
	空間率の適正包装	空間率15%未満	+1
	リサイクルシステムへの適合性	全ての部位にリサイクルの容易な包装資材を使用	+1
温室効果ガス削減	LC-CO ₂ 発生量の削減	既存品より削減	+1
	輸送効率	積載効率80%以上	+1
持続可能な調達	環境配慮材料の使用	森林認証紙の採用	+1
生活者のエコライフ意識の醸成	環境対応表示の有無	「味なエコ」マークの表示	+1
フードロス削減	フードロス削減	シェルフライフの延長	+1
		小分け包装の採用	+1

日本国内では容器包装リサイクル法に則り、家庭から排出される容器包装ごみの再商品化を日本容器包装リサイクル協会に委託して行っています。国内グループ3社(味の素(株)、味の素冷凍食品(株)、味の素AGF(株))の再商品化義務のある容器包装使用量は、2018年度実績で33.6千トン、前年度比98.8%でした。この使用量に基づく2020年度の再商品化実施委託料金は、400.6百万円、前年度比97.2%でした。

プラスチック製容器包装とPETボトルの使用量はほぼ横ばいですが、ガラス瓶の使用量はギフト用瓶製品の終売により前年度比94.2%となりました。再商品化実施委託料金の単価は上昇していますが、2018年度は容器包装使用量が減少したため、2020年度の支払額は減少しました。

国内グループ3社の家庭用製品の容器包装使用量と再商品化実施委託料金



資源循環型社会実現への貢献

実績

GRI303-1

生分解性の高いアミノ酸系洗浄剤の供給拡大

味の素(株)は、1972年にグルタミン酸を原料としたアミノ酸系洗浄剤を世界で初めて発売して以降、55カ国、5,000社以上にアミノ酸系香粧品素材を提供しています。

アミノ酸系洗浄剤は、生分解性が高いため環境への負荷が小さいことに加え、肌にやさしいという特長があります。地球環境への関心の高まりに伴い需要が急拡大していることから、味の素グループはアミノ酸系洗浄剤の供給体制を強化しています。

具体的には、2020年秋の稼働開始を目指して、ブラジルにグルタミン酸由来の「アミノソフト®」(液体)の工場を新設します。これに合わせて、日本で生産している「アミノソフト®」(液体)の生産設備の一部をグリシン由来の「アミライト®」(液体)の生産に転用します。これらの生産体制の整備により、グループ全体で「アミノソフト®」(液体)の生産能力を約60%、「アミライト®」の生産能力(全製品形態合計)を約30%増強し、アミノ酸系洗浄剤の供給不足の解消を目指します。

実績

GRI301-3

GRI417-1

▶ P81

▶ 「味なエコ」マーク

独自の環境マーク「味なエコ」「ほっとするエコ」

「できるだけ環境に良い製品を選びたい」「製品のエコをひと目でわかるようにしてほしい」というお客様のニーズにお応えし、味の素グループでは2010年より製品に独自の環境マークを表示しています。お客様にはわかりづらい、包装の軽・薄・短・小や素材の変更といった改良点をできるだけ正確にお伝えするよう努めています。

味なエコ



「味なエコ」
 マーク製品数
210品種

2020年3月現在

「味なエコ」とは?

味の素グループが提供する「味の素グループらしい・気のきいた(=味な)」「環境にやさしい(=エコ)」製品や情報のごことで、ロゴマークは「地球の緑と食事の喜びを模したもので、食を通じたより良い地球環境」を表現しています。



「ほっとするエコ」
 マーク製品数
263品種

2020年3月現在

「ほっとするエコ」とは?

味の素AGF(株)製品の環境への取り組み情報のごことで、ロゴマークは「地球の緑」と嗜好飲料が持つ「やすらぎ」を表現しています。2015年より表示を開始しました。

■ マーク一覧

- ・ 植物プラスチックでエコ
- ・ 再生プラスチックでエコ
- ・ 森林資源保全でエコ
- ・ 再生紙でエコ
- ・ 省包材でエコ
- ・ 詰め替えてエコ
- ・ トレイなしでエコ
- ・ 捨てやすくしてエコ
- ・ 箱なしでエコ
- ・ 自然解凍でエコ